

保育者養成課程における幼児を対象とした 運動遊びの環境構成に関する検討

—第2報—

青 山 翔*

(2020年12月24日 受理)

A Study on the Environmental Composition of Physical Activity for Early Childhood Children in the Childcare Teacher Training Course

—2nd Report—

Sho AOYAMA*

In the present study, university students attending a childcare worker training course worked on creating a place for exercise play for kindergarteners with a free concept, and through directly observing how the children actually experiences the created places for exercise play. The purpose was to examine the results and issues that could be obtained. 48 second- and third-year university students attending the nursery school training course at Hiroshima Jogakuin University worked on creating an athletic playground, and in fact, created an athletic playground for 74 5-year-old children attending Hiroshima Jogakuin Gaines Kindergarten. As a result of looking back, it was suggested that the students were able to work hard on the production so that the children could enjoy it in cooperation with their peers, which gave them a sense of fulfillment. In addition, it became clear that by having the children actually experience the exercise field created, they were actively thinking about how to be involved with the children as a childcare worker and trying to act.

Keywords: Physical activity 運動遊び, Physical ability 体力, Early childhood children 幼児, Health 健康, Environment 環境, Expression 表現

1. はじめに

児童期の子どもの体力・運動能力に関する報告によると、1985年から1998年頃まで小学生の体力・運動能力は徐々に低下を示しており、小児肥満や早期の生活習慣病の増加と合わせて生涯の健康に関わる大きな問題となっている（厚東ら、2020）。平成17年度と平成27年度の小学生の体力・運動能力を比較した研究では、男女のボール投げの結果について、平成27年度の小学生は平成17年度の小学生よりも有意に低かったことが報告されている（河井ら、2017）。全国の公立小学校では年に一度新体力テストを継続的に行っており、児童期の子どもの体力・運動能力の低下については長年議論されてきた。

幼児期の子どもの体力・運動能力については、毎年継続的に全国的な調査が行われてきたわけで

* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科専任講師

はないが、就学前に屋外で体を動かす頻度が多かった群は、低かった群よりも有意に新体力テストの合計点が高かったことが報告されている（スポーツ庁，2017）。また、森（2011）は、4歳児から6歳児を対象として、それぞれの年齢の子どもの運動能力について、1986年から1997年にかけて低下の一途を辿っていることを報告している。このように体力・運動能力の低下は児童期及び幼児期の子どもにおいて見られる大きな問題であると言える。

この問題の背景について、片岡ら（2019）は、スポーツや外遊びに必要とされる時間、空間、仲間の3つの縮小によって子どもが運動不足となり、体力や運動能力の低下が起きていると述べている（片岡ら，2019）。また、厚東ら（2020）は、幼児期に多種多様な遊びや運動経験を確保することが生涯を通して健康な生活を送ることに繋がると考えられると述べている。従って、幼稚園、保育園、認定こども園等のほとんどの幼児が一日の大半を過ごす施設において、幼児が運動に親しむ機会を保育者が意識的に確保することが重要であると考えられる。さらに、そのような施設に専門職者として働くこととなる幼稚園教諭や保育士が、保育者養成課程で学ぶ学生の頃から幼児の運動発達に関する知識を学び、実際に幼児の運動発達を意識した環境構成についての実践的な学びを深めることは重要である。

そこで、著者は、保育者養成課程に通う大学生が幼児の運動発達に関する知識をもとに、実際に幼児を対象とした運動遊びの環境構成を行うことで得られる成果と課題について検討を行った（青山，2020）。その結果、保育者養成課程に通う大学生が幼児の運動発達を意識した運動遊びの場作りに取り組み、実際に幼児にその場を体験してもらい、その活動の振り返りを行うことで、幼児の運動発達を意識しながら運動についての環境構成を自分で制作するという視点を養うことができたという成果が得られた。しかし、「忍者修行の場について段ボールを使用して制作する」というコンセプトのもと運動遊びの環境構成について受講生は考えていたことから、自由なコンセプトで運動遊びの場を表現するという設定のもと、保育者養成課程に通う大学生により想像力を働かせて運動遊びの環境構成について考えさせることが今後の課題としてあげられた。また、運動遊びの場を制作した大学生のほとんどが、幼児が運動遊びの場を体験する現場におらず、実際幼児が運動遊びの場を体験する様子を直に見て振り返りを行うことができなかったことが課題であった。

そこで、本研究では、上記の課題を踏まえ、保育者養成課程に通う大学生が、幼児の運動発達に関する知識を学び、自由なコンセプトで幼児を対象とした運動遊びの場作りに取り組み、制作した運動遊びの場を実際に幼児が体験する様子を直接観察することを通して得られる成果と課題について検討することを目的とした。

2. 方法

(1) 対象者

広島女学院大学の保育者養成課程に通う大学2年生及び3年生48名は、広島女学院ゲーンズ幼稚園に通う年長児を対象とした運動遊びの場の制作に取り組んだ。

(2) 計画

「子どもと遊び」という授業の第1回から第8回にかけて、幼児期の子どもの運動発達に関する講義を受け、幼児期の子どもを対象とした運動遊びの場を制作し、実際に幼児に体験してもらい振り返りを行うという授業の計画を立てた。具体的には、第1回の授業において、幼児期の子どもの運

動発達に関する講義をし、幼児を対象とした運動遊びの場を制作することに関する説明をする計画を立てた。第2回から第6回の授業において、受講生は、数名で1つのグループを作り、年長児を対象とした運動遊びの場作りについて1人1つずつ考えてきたアイデアの中からグループで1つにしぼり、グループの仲間と協力して制作に取り組むという計画を立てた。第7回の授業において、広島女学院ゲース幼稚園の年長児に、受講生が制作した運動遊びの場を体験していただき、体験している様子をビデオカメラで撮影する計画を立てた。第8回の授業において、第7回で撮影した動画を見ながら、受講生は制作した運動遊びの場について、個人及びチームで振り返りを行うという計画を立てた。

3. 研究の実際

「子どもと遊び」の第1回の授業において、受講生に対して、幼児期の子どもの運動発達の知識に関する講義を行った。また、その知識をもとに、広島女学院大学と同じ敷地内にある広島女学院ゲース幼稚園の年長児を対象として、ダンボールや色画用紙等の材料を用いて運動遊びの場を制作することについての説明を行った。1人1つアイデアを考えるが、グループで1つの場を制作することとした。第2回の授業からは、受講生は、グループに分かれて運動遊びの場の制作にかかった。最終的には、1グループ3～6名の合計11グループとなった。

運動遊びの場の制作過程を撮影した写真1～4を以下に示す。



写真1 制作過程①



写真2 制作過程②



写真3 制作過程③




写真4 制作過程④


考えていたアイデア通りに制作が進むグループもあれば、思っていた以上に制作するのが難しく、代案を考える必要が出てきたグループもあった。しかし、どのグループも、園児に楽しんでもらいたいという一心で仲間と協力して魅力的な運動遊びの場を第6回までに完成させることができた。

11チーム（AチームからKチーム）それぞれの完成した運動遊びの場についての説明を以下に示す。


① A チーム

遊び場名 シーソー	
内容 バランスを取って、シーソーを楽しむ。	
身に付く動き しゃがむ、バランスを取る。	
工夫した点 ・安全性を考えて、座る場所を強めに作った点。 ・バランスを取りやすいように持ち手をつけた点。	
注意したいポイント or 遊びの展開 ・子どもだけで乗るのは危ないため、支える人が必要である。	材料 段ボール、ガムテープ、割りばし


② B チーム

遊び場名 宝島	
内容 空腹の船長を助けるために、島で魚を釣ってあげる。	
身に付く動き のる、つかむ、わたる、たつ、とぶ、あるく、もつ。	
工夫した点 ・子どもが島に乗っても安定しやすいように工夫した点。 ・世界観が出るように、魚、宝、船長を作成した点。 ・枝でケガをしないように、やすりをかけた点。 ・自然を感じてもらえるように木の枝を利用した点。 ・違う視点を持ち、発見を増やしてもらうため、廃材を利用した点。	
注意したいポイント or 遊びの展開 ・転倒しないようにサポートをする必要がある。 ・励ましの声掛けをする。	材料 ダンボール、クリップ、ペットボトル、新聞紙、画用紙、磁石、セロハンテープ、麻ひも、色ペン、枝、ガムテープ

③ C チーム

遊び場名 きらきら星！すべり台	
内容 ダンボールで滑り台をつけ、ビニールを使用してドームを再現した。	
身に付く動き のぼる、くぐる、すべる。	
工夫した点 ・ビニールでドームを再現した点。 ・色を塗った点。 ・星をつけた点。 ・耐久性を高めるため、中にダンボールとペットボトルを入れた点。	
注意したいポイント or 遊びの展開 ・出口に頭から出るので、下にマットをひくこと。 ・ビニールが安定していないので、手でもつ。	材料 ダンボール、ビニール、ビニールテープ、画用紙（金・銀）、ペットボトル、絵の具（青・黄）

④ D チーム

遊び場名 キッキングスナイパー	
内容 ソフトバレーボールを使用して、狙いの筒を倒して、点数を競う。	
身に付く動き ける、なげる、あてる。	
工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・点数によって、画用紙の色を変えた点。 ・投げても、蹴っても遊べるようにした点。 ・100点の数を少なくして楽しめるようにした点。 ・ホワイトボードに得点を書くようにした点。 ・安全性を考慮して、柔らかいボールを選んだ点。 ・投げる（蹴る）位置によって、得点が加算されるようにした点。 	
注意したいポイント or 遊びの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・筒が倒れた時に、周りの子どもに当たらないようにするために、スタートの合図をする。 ・けがを防止するために、柔らかいボールを選択する。 	材料 ダンボール、色画用紙、カラーペン、ガムテープ、カッター


⑤ E チーム

遊び場名 にこにこ広場	
内容 橋を渡り、それぞれライオンとサルの箱へ時間内までに投げ続ける。	
身に付く動き とぶ、わたる、のる、なげる。	
工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・ただボールを投げるだけでなく、箱までの道に橋を作った点。 ・ボールを入れる所に、「ライオンとサル」という、子どもたちが好きな動物を貼り、好奇心が湧くようにした点。 	
注意したいポイント or 遊びの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士でボールを投げ合わないようにする。 ・順番を守るように指示する。 ・時間を守るように指示する。 	材料 ダンボール、画用紙、ガムテープ、セロハンテープ、ビニールテープ、新聞紙、ブルーシート


⑥ F チーム

遊び場名 あつまれ！どうぶつ わなげ	
内容 輪投げ。	
身に付く動き なげる、わたす、もつ。	
工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・動物の体の一部を輪っかを引っ掛けられるようにして、輪投げと動物を一体化させた点。 ・棒の部分は上から貼り付けるのではなく、差し込むことで頑丈で安全に遊べるようにした点。 	
注意したいポイント or 遊びの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・人に向かって投げないようにする。 ・順番を守る。 ・トンネルをくぐった後に、動物を見つけ、輪をかけてみようと呼ぶ。 	材料 色画用紙（赤・ピンク、茶・黒・灰色・水色・白・青・紫）、ガムテープ（赤・黄・青・茶・黒）、絵の具（オレンジ）

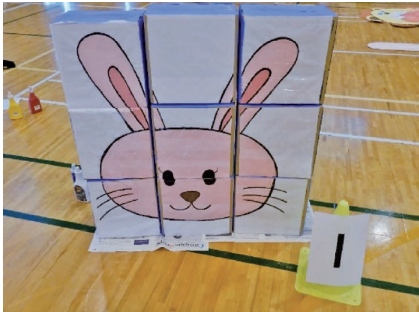
⑦ G チーム

遊び場名 投げたらどうなる?! わくわくボール投げ	
内容 ダンボールの穴の中に玉を入れて、穴の中に音が鳴るように楽器を入れ、穴に入れる楽しさと音が鳴る楽しさを味わう。	
身に付く動き なげる、もつ、つかむ、あてる。	
工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろなボールの大きさを用意した点。 ・ 野菜や動物など多くのキャラクターを作った点。 ・ 穴の中が見えないように裏からすずらんテープを貼った点。 ・ いろいろな感触のボールを作った点。 ・ 穴にボールを入れるだけでなく、音が鳴るようにした点。 	材料 ダンボール、絵の具、ガムテープ、カッター、音が鳴る物、すずらんテープ、画用紙、ボンド
注意したいポイント or 遊びの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人に向かって投げないように注意する。 	


⑧ H チーム

遊び場名 GoTO トレイン	
内容 電車に乗り、学生が縄で引っ張る。	
身に付く動き のる、つかむ。	
工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 踏切を本物に似せた点。 ・ 電車だと子どもが一目で認識できるように見た目にこだわった点。 ・ 電車に乗る子どもがバランスを崩さないように持ち手を作った点。 ・ 押すのではなく、縄を引くことで、子どもの表情を見て、速さを調節できるようにした点。 	材料 ダンボール、色ガムテープ（黒・黄）、はさみ、ボンド、カッター、絵の具（緑）、台車、画用紙（赤・水色・黄・黒）、麻ひも
注意したいポイント or 遊びの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが電車に乗っている時に立たせないようにすること。 ・ 縄を引く速さを子どもの表情を見て調節すること。 ・ 言葉かけを意識して、遊びを盛り上げること。 	


⑨ I チーム

遊び場名 なにかかくれているかな? ○○パズル!!	
内容 9つのダンボール箱に描いてあるバラバラの絵を見て、1つの絵を完成させる。	
身に付く動き もつ、つむ、はこぶ、おす。	
工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4通りの絵を描くことで遊びも4通りと増えるようにした点。 ・ 大きなパズルにすることで、身に付く動きの種類を増やした点。 ・ 目で見るだけでも楽しめるように明るい色を多く使用した点。 	材料 ダンボール、画用紙、ガムテープ、絵の具、ペン、テープ
注意したいポイント or 遊びの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ ダンボールを蹴ったり、投げたり等、子どもが違う遊びを始めてしまわないように注意をする。 ・ 遊びが単調にならないように、タイムアタック性にするなどの展開を作る。 	

⑩ J チーム

遊び場名 ばくばくフリスビー	
内容 うさぎとライオンの口の中にエサを入れる。	
身に付く動き なげる。	
工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールでうさぎとライオンを表現し、口の大きさを変えることで難易度をつけた点。 ・フリスビーをニンジンや肉、キャベツに表現することで、動物たちが食べるエサをリアルにした点。 	
注意したいポイント or 遊びの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・投げ場所を、子どもの発達によって、近づけたり、遠くしたりする。 	材料 ダンボール、カッター、のり、ボンド、すずらんテープ、色画用紙、ペン、ガムテープ、新聞紙、折り紙

⑪ K チーム

遊び場名 ペットボトルキャップと神経衰弱	
内容 神経衰弱	
身に付く動き 指先の運動機能、記憶力。	
工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・4つの種類を作り、多くの子どもたちが楽しむことができた点。 	
注意したいポイント or 遊びの展開 <ul style="list-style-type: none"> ・1セットでできたら、次は人数を増やして2セットで遊ぶ。 	材料 ペットボトルのキャップ、画用紙、両面テープ、色鉛筆、ペン

第7回の授業では、11チームの制作物を広島女学院ゲーンズ幼稚園に運び、年長児74名は受講生により制作された運動遊びの場を体験した。体験前に園児には、「安全に体験すること」、「仲良く体験すること」、「楽しむこと」の3つの約束を守ることをお願いした。受講生は、園児に丁寧に説明をしながら体験を行った。また、担任の先生には園児が混乱しないように、様子を観察していただき、適宜園児に支援をしていただいた。大きな混乱はなく体験が終了し、園の先生から所感を述べていただいた。体験の一部始終をビデオカメラで撮影し、後日振り返りを行う際の資料とした。

学生が制作した運動遊びの場を園児が体験した当日の様子を撮影した写真5～8を以下に示す。



写真5 体験当日の様子①



写真6 体験当日の様子②



写真7 体験当日の様子③



写真8 体験当日の様子④

4. 結果と考察

第8回の授業において、受講生は広島女学院ゲース幼稚園にて園児が運動の遊び場を体験した様子を動画で撮影したものを視聴して振り返りを行った。自チームの制作した運動の遊び場について、良かった点、改善点を記述した。また、広島女学院ゲース幼稚園の先生方からインタビュー形式で、それぞれのチームの運動遊びの場についても意見を伺った。以下にその結果（①良かった点、②改善点、③広島女学院ゲース幼稚園の先生方の意見）を示す。

<Aチーム：シーソー>

①良かった点

- ・仲間と強度を高めるための工夫を協力して考えられた。
- ・壊れてしまったが、その後子どもに楽しんでもらえるように考えることができた。

②改善点

- ・子どもの体重を考慮して強度をもっと高めればよかった。
- ・左右が非対称だったことから、対称にしてバランスを取れるようにするべきだった。
- ・子どもが座りやすい高さを考えて作成するべきだった。

③広島女学院ゲース幼稚園の先生方の意見

- ・すぐに飽きてしまうかもしれないので、更に工夫した遊び方を考えることも必要だと感じた。

- ・序盤でシーソーが壊れてしまったが、壊れたなりに代案をよく考えていた。
- ・木等の強度のあるものを利用したら壊れなかったかもしれない。

<B チーム：宝島>

①良かった点

- ・子どもの様子に合わせて臨機応変に対応できた。
- ・先生方からのアドバイスをいかすことができた。
- ・テーマに沿った活動ができた。

②改善点

- ・釣り竿と子どもの人数が合わなかった。
- ・流れの説明はできていたが、順番の説明はできていなかった。
- ・持って帰れるように、魚の数を増やせばよかった。
- ・持ち時間を予想して準備をすることができていなかった。

③広島女学院ゲーンズ幼稚園の先生方の意見

- ・冒頭に細かい説明をしていただいたので園児はコンセプトをしっかりと理解できていた。
- ・学生同士の連携がしっかりと取れていた。
- ・釣り竿が足りない時があったので、釣り竿がもっとあるとよかった。

<C チーム：きらきら星！すべり台>

①良かった点

- ・子どもたちにいろいろな滑り方を提案できた。
- ・メンバーそれぞれが効率の良い作業ができた。
- ・強度にこだわったので壊れずに子どもたちが遊べた。

②改善点

- ・滑り台の素材が滑りにくかった。
- ・トンネルが自立していないため、手で持たなくてはいけなかった。

③広島女学院ゲーンズ幼稚園の先生方の意見

- ・前向きで滑ったり、後ろ向きで滑ったりと子どもが滑り方を工夫していてとても楽しそうだった。
- ・星が見えて楽しかったという園児の声が多かった。
- ・もう少し滑る素材を使用したらよかった。
- ・滑り台の強度を高めたり、距離を長くしたりするとよりよいものになったかもしれない。

<D チーム：キッキングスナイパー>

①良かった点

- ・筒をカラフルにしたことで子どもの興味を引くことができた。
- ・けがに気をつけてできた。

②改善点

- ・倒す筒の予備を用意すべきだった。
- ・筒が倒れてから直すまでに時間がかかってしまった。

③広島女学院ゲーンズ幼稚園の先生方の意見

- ・蹴るという機会が園では少ないのでよい運動の機会となった。

- ・競うということは楽しさに繋がるが、今回の場に関しては、園児はあまり点数を気にしていなかったようである。
- ・グループ内で2つに分けて競っても楽しいかもしれない。
- ・分かりやすく、園児はとても楽しそうだった。
- ・ボールの管理をしっかりと行うとよい。

<E チーム：にここ広場>

①良かった点

- ・先生方の意見を取り入れることができた。
- ・遊ぶ時間や人数を予め決めていたため、効率よく遊びを行うことができた。

②改善点

- ・右利きの幼児が多いため、右側に置いてあったライオンの箱にばかり投げて、左側に置いてあったサルの箱に投げる幼児が少なかった。
- ・ストーリー性が出せなかった。

③広島女学院ゲース幼稚園の先生方の意見

- ・いろいろな選択肢があって面白かった。
- ・ボールを選んでいる園児が多かったので、そのあたりのルールが園児に伝わっていなかったのかもしれない。
- ・ストーリー性がより鮮明だとよかった。

<F チーム：あつまれ！どうぶつわなげ>

①良かった点

- ・みんなの意見を取り上げて遊び場を作成することができた。
- ・遊びの世界観を大切にした言葉を掛けることができた。

②改善点

- ・ルール説明を徹底するべきだった。
- ・子どもとの関わり方に、ある程度の余裕があるとよかった。

③広島女学院ゲース幼稚園の先生方の意見

- ・近くにも、遠くにも自分の力に合わせて挑戦できるのがよかった。
- ・遠くは点数が高い等のルールがあってもよかった。
- ・トンネル内で輪を得て、投げるというルールがよいのではというアドバイスを受け入れてくれてよかった。
- ・動物の統一感があつたらよかった。

<G チーム：投げたらどうなる？！わくわくボール投げ>

①良かった点

- ・音を鳴るようにして子どもの興味を引き出せた。

②改善点

- ・投げる穴が小さすぎるものが多かった。
- ・効率よくボールをかいしゅうすることができなかった。
- ・投げる位置を決めていなかったために、ルールが曖昧なところがあった。

③広島女学院ゲース幼稚園の先生方の意見

- ・音が鳴ることに園児は喜んでいて、
- ・受講生が少なく忙しそうで、子どもへの声掛けをする余裕がないように感じた。
- ・絵が盛りだくさんすぎるので、統一感があるとよかった。
- ・投げの位置をしっかりと決めて、ルールを徹底することが楽しさに繋がると感じた。

<H チーム：GoTO トレイン>

①良かった点

- ・ディズニールンドのようなナレーションで雰囲気作りができた。
- ・子どもが電車に乗り降りする際に、安全面に配慮できた。
- ・自分でチケットの色を選んでもらい、順番を守ってもらうことが自然とできた。

②改善点

- ・草が少なく電車の通路に子どもが入ってきたため、もう少し安全面に配慮するべきだった。
- ・麻ひもを引いて手が痛くなった。
- ・到着地点にゴミ箱を作って、チケットを捨てるようにすればよかった。

③広島女学院ゲース幼稚園の先生方の意見

- ・思った以上にスピードが出て、園児はとても楽しんでいて、
- ・出発前のナレーションが素晴らしかった。
- ・切符があることで順番を守ることにも繋がっていてよかった。

<I チーム：なにがかくれているかな？〇〇パズル！！>

①良かった点

- ・子どもたちがグループで協力してパズルを完成させようと取り組める遊びが作れた。
- ・色や動物を分けることで4通りの遊びができた。
- ・言葉掛けを積極的に行うことができた。
- ・身に付く動きに加えて、遊びを通して子どもたちの想像力を高めることができた。

②改善点

- ・遊びに参加していない子に対して、積極的に言葉掛けをするべきだった。
- ・縦に並べずに、地面に置いて並べるパズルにすればよかった。
- ・2つのパズルを近くに置いて、両方を遊びやすくすればよかった。
- ・ルールの徹底をするべきだった。
- ・もう少し難易度の低いイラストにしておけばよかった。
- ・もう少し頑丈に制作すればよかった。

③広島女学院ゲース幼稚園の先生方の意見

- ・受講生が園児によく声をかけてくれていたのがよく分かった。
- ・出来ていない子どもにより積極的に声掛けできるとよい。
- ・グループを分けて半分ずつ行うということをしたら、面白みが増したかもしれない。

<J チーム：ばくばくフリスビー>

①良かった点

- ・にんじんやお肉等の工夫をして制作することができた。

- ・子ども達が楽しめるように言葉掛けができた。

②改善点

- ・ルールを子ども達に分かりやすく伝えることができなかった。
- ・子ども一人ひとりに声を届けることができなかった。

③広島女学院ゲース幼稚園の先生方の意見

- ・見た目がとても興味をひくので、園児たちはあれやってみたいという声が多かった。
- ・受講生が園児のために大いに盛り上げてくれた。
- ・投げる位置等のルールを徹底するとよい。

<Kチーム：ペットボトルキャップと神経衰弱>

①良かった点

- ・言葉掛けがよくできた。
- ・4種類あって楽しめた。

②改善点

- ・他のグループよりも地味だった。
- ・指先のみで体を使えていない遊び場だった。
- ・遊ぶのにある程度の時間が必要であった。

③広島女学院ゲース幼稚園の先生方の意見

- ・ルールが分かりやすかった。
- ・運動遊びというコンセプトを考えると、少しずれを感じた。

上記の結果から、幼児の運動発達を意識して運動遊びの環境構成に取り組み、実際に幼児に体験してもらいその振り返りを行うことで、受講生は仲間と協力して、幼児に楽しんでもらおうと一生懸命に制作に取り組むことができ充実感を得ていることが示唆された。また、実際に幼児に制作した運動の場を体験してもらうことで、保育者としてどのように子どもに関わることがよいのかということを積極的に考えて行動しようとしていたことが明らかになった。さらに、子どもの様子だけでなく、園の先生方からのフィードバックをいただいたことで、幼児教育の実際の現場で働いている方からの具体的な子どもを見る視点を学ぶ機会となったと推察される。本研究では、青山（2020）で得られた課題を踏まえて、受講生には、自由なコンセプトで運動遊びの場を表現するように設定した。その結果、非常にたくさんの運動遊びの場作りのアイデアが生まれ、多くの場があることで子どもたちの興味・関心が高まったことが示唆された。

2019新型コロナウイルス感染拡大が世界中で猛威をふるっており、日本においても感染拡大防止の一環として自粛生活が余儀なくされてきた。このことにより、子どもが体を動かす機会が減少しており、子どもの体力低下が懸念されている。本研究のように運動遊びに関する環境構成を自ら考えるということを保育者養成課程で学ぶ学生の頃に行うことは、幼児に運動を行う機会を保育者が提供するうえで重要であるといえる。

本研究では、保育者養成課程に通う学生自ら運動遊びの場の制作に取り組み、実際に幼児に体験してもらい、園の先生方からフィードバックをいただくことで、幼児教育において求められる資質や能力について深い学びができたことが大きな成果であった。しかし、幼児による運動遊びの場の体験は1日限りのイベントであった。子どもの体力・運動能力向上に対する支援においては、長期

的な支援の重要性が報告されている（厚東ら，2020）。本研究のような運動遊びの場を定期的に幼児に提供することで，幼児の体力・運動能力向上にどれくらい高まるのかということについて検討することが今後の課題である。

謝辞

本研究を行うにあたりご協力いただきました広島女学院ゲーンズ幼稚園の高田憲治先生，古重歌織先生，梅田桃香先生，橋本佳南先生，白石恵史先生，広島女学院ゲーンズ幼稚園に通う年長児の皆様には厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 厚東芳樹・栗田七奈美. (2020). 幼児の体力・運動能力に関する現状と課題, 人間生活文化研究, 30, 825-835.
- 2) 河井克正・澤田考二. (2017). 10年前と現在の小学生の体力・運動能力の比較（第1報）—6～8歳児童の調査結果の分析—, 山梨学院短期大学研究紀要, 37, 41-52.
- 3) スポーツ庁. (2017). 体力・運動能力調査報告書. https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k_detail/1409822.htm (2020年12月9日アクセス可能)
- 4) 森司朗. (2011). 幼児の運動能力における時代推移と発達促進のための実践的介入, 平成20～22年度文部科学省科学研究費補助金（基礎研究B）研究成果報告書.
- 5) 片岡佑衣・寺本圭輔・村松愛梨奈・谷川裕子・國友響子. (2019). 幼児期の体力・運動能力の年代変化, 愛知教育大学保健体育講座研究紀要, 43, 9-17.
- 6) 青山翔. (2020). 保育者養成課程における幼児を対象とした運動遊びの環境構成に関する検討, 広島女学院大学人間生活学部紀要, 7, 61-68.